

色柄判別システム

ニシテック(ひたちなか市)

「既存のセンサーやカメラでは判別できなかった部品や材料の微妙な色柄の違いも高精度に判別できるシステム」。ニシテックの西川智潮社長(52)は、新開発の「色柄判別システム」の特徴をこう強調する。

発光ダイオード(LED)ライトと工業用カメラを一体化させた特殊な自社開発のカメラで、素材の表面のパターンや色合いを複数撮影し、独自のアルゴリズムを用いた解析ソフトにより自動で分析・識別できる。ワンタッチ操作で、数秒で判別できる。

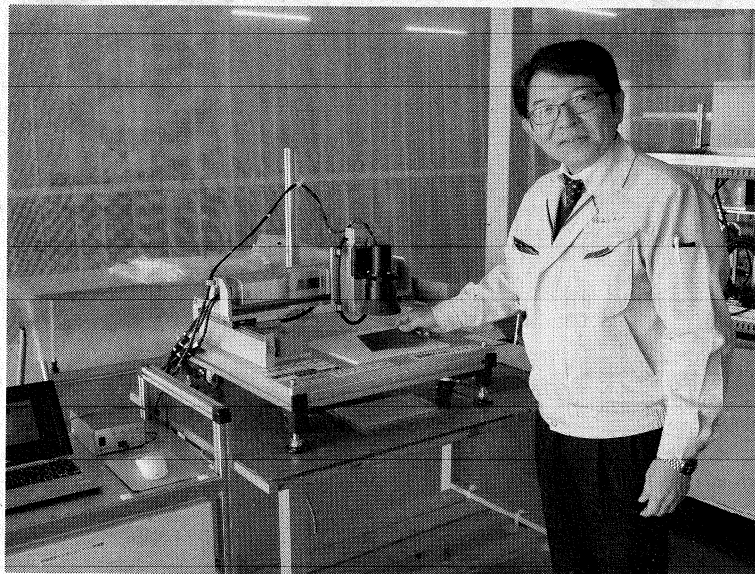
現在、県工業技術センターで実証試験を行っている。西川社長は「90%台後半から100%の高精度を誇る。視覚や経験などに頼ってきた製品検査の自動化や組み立てミスの防止に効果を発揮できる」と胸を張る。

日立製作所OBの西川社長の父慧さんが個人で営業を始めた「ニシテック日立」が前身。生産設備の機械加工部品



<97>

微妙な違い 高精度に判別



「製品検査の自動化や組み立てミス防止に役立つシステム」と話すニシテックの西川智潮社長=ひたちなか市高場

の納入を手始めに事業を拡大し、2002年に法人化。大手保険会社に勤務していた西川社長もUターンし、慧さんを支えた。

取引先は大手中心だが、「下請けには限界がある。うちにしかできないものを一つでも多く積み上げていきたい」と西川社長と新事業への挑戦を決めた。

多様な部材を取り扱う建築業界では、似たような木目や色合いの商品を選択する場合、間違っ取り扱う人的ミスが発生しており、従来の画像処理システムでは、微妙な色彩の違いや柄の違いまで識別できないなどの課題があった。こうした課題解決に向けて、埼玉工業大や県内外のソ

「多分野での展開や、自社の海外ネットワークを活用した輸出も視野に入れている」と西川社長。ものづくりで培った技術で新境地を切り開いていく。(第4火曜掲載)

- ▽本社 ひたちなか市高場
- ▽設立 2002年2月
- ▽資本金 3000万円
- ▽従業員 18人
- ▽メ モ さまざまな画像処理の装置開発に力を入れていく方針。

フトウエア開発会社と連携し、これまでになかった新システム開発に乗り出した。

2年かけて完成させたシステムは、顧客ニーズの洗い出しや細部の調整を行った上で、今年夏の市販化を予定している。建材メーカーを中心に提案していく方針だが、工業用の各種フィルムや医療用カテーテルなどにも応用が可能という。